

令和2年 年頭の辞



九州運輸局観光部長 堀 信太朗

新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

2019年を振り返ると、九州の観光は、様々な変化に直面した年であったように思います。九州各地の観光地で、地元の受入能力を超える観光客が訪問することにより引き起こされる「オーバーツーリズム」の課題が盛んに議論されていたなかで、日韓関係の冷え込みによる韓国インバウンドの急減やクルーズ旅客の減少、常態化する台風や豪雨などの自然災害などにより、九州の観光を取り巻く環境は大きく変化していきました。

他方、ラグビーワールドカップ2019日本大会、ローマ教皇の長崎ご訪問、2019年女子ハンドボール世界選手権大会を契機に国内外の多くの観光客が九州を訪問されるなど、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会、2021年の第19回FINA世界水泳選手権2021福岡大会・第19回FINA世界マスターズ水泳選手権大会へと続く、力強い動きもありました。

このような九州の観光を取り巻く環境の変化の中で、2020年は九州観光のあり方を見つめ直し、新たな方向性を見出す年にできたら良いのではないかと考えております。今後の九州観光のあり方を検討する一つのヒントは、「持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）」の推進です。この考え方では、地元の自然、歴史・文化、社会を最大限に尊重することを前提に、地元の社会・経済に裨益する観光を目指し、地元の環境、文化保全につながるような観光資源の開発・発展を目指すものです。

「持続可能な観光」は、多くの国際観光旅客が高い関心を持っている考え方です。例えば、昨年10月に、欧米を中心に約49兆円規模の市場があると言われていた体験型観光のアドベンチャー・トラベル領域最大の協会であるATTAのシャノン・ストウエル(Shannon Stowell)CEOが九州を訪問された際に、九州について潜在性の高い観光目的地として非常に良い印象を持った反面、九州の観光目的地や観光施設はマス・ツーリズムに注力しているようであり、今後、地元が主体となり、時間をかけて観光に関する意識を変える必要があるのではないかと感想を述べられていました。この発言も国内外の観光客誘致のあり方を考えるヒントとなるのではないかと思います。

「持続可能な観光」を実現するためには、地元住民参加型の観光まちづくりや環境負荷軽減に配慮した観光のあり方等が重要な要素となります。九州運輸局観光部としても、自治体、観光地域づくり法人（日本版DMO）、事業者の皆様としっかりと連携し、九州観光の新たな方向性について、共に議論し、考えてまいります。例えば、地元の自然、歴史、文化、食を尊重した体験型の観光（アドベンチャー・ツーリズム、サイクリング・ツーリズム等）や地元住民との交流の機会の創出などは、世界中のどの国からの観光客に対しても広く訴求することができるアプローチでないかと考えております。

最後に、九州が世界的な観光地になるためには、人種、宗教、性別、年齢、身体障害の有無を問わず、「すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる滞在環境」の整備が重要です。九州を訪問された観光客の一人ひとりが楽しく、満足できる経験をして頂くことが、何度も九州に足を運んでもらうことにつながると思います。そのために、九州運輸局観光部も必要な情報提供や補助金等の支援制度を通して、九州における受入環境の向上に貢献できるように努めてまいります。

九州観光の更なる発展のために、九州運輸局観光部一同、一層の努力をする所存です。本年も変わらぬご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。